

4/28 千歳から新たなクラフトビールが誕生
時間をデザインする一杯



4月22日、市内を拠点とする「株式会社 HOURS BEER」が、クラフトビールの販売を開始しました。同社のビールは、「女性におすすめのビール」として、それぞれの時間帯に合わせた一杯を設計。また、「誰かに無理をさせないこと」という思いから、性別や経験を問わず続けられる工場設計としました。代表取締役の後藤 ひかるさんは「週に1、2回の自分へのご褒美として楽しんでほしい。千歳市の新たな魅力の一つになれるよう頑張ります」と笑顔を見せます。今回の商品は「7:00PM SUNSET GOLD」、「9:00PM COCO SWEET」、「10:00PM CRYSTAL ROUGE」の3種類で、ビックリッキーの各店や memos(錦町3)で販売されています。



4/11 ラピダス社が解析センターとRCSを開所
最先端半導体量産へ前進



世界最先端のロジック半導体の開発、製造をめざすラピダス社が「解析センター」と「Rapidus Chiplet Solutions (RCS)」の開所式を行いました。解析センター(写真)はラピダス社の開発・製造拠点である「IIM-1」に隣接し、最先端半導体の解析や評価などを行います。RCSはセイコーエプソン千歳事業所内に位置し、半導体を製品に仕上げる後工程の研究開発拠点となります。開所式にはラピダス社の東会長と小池社長、赤澤経済産業大臣、鈴木道知事、横田市長らが出席し、テープカットを行いました。小池社長は、解析センターについて「物理解析や環境・化学分析を、今までにないスピードで行うことができる」、RCSについて「(電子回路を形成する)前工程と後工程を一貫して作るための大きな前進」と紹介し、「2027年には量産を開始することをお誓いする」と宣言しました。

3/27 令和7年度 建設優良事例表彰制度
優良事例として2社を表彰



市は、令和6年度から、建設部で発注した建設工事のうち、安全性や品質の向上に向けた創意工夫、社会貢献活動などを行った工事を「優良事例」として表彰する制度を開始しました。令和7年度は、施工者である協栄・ヒロトミ特定共同企業体(27号通整備工事)、中山建設株式会社(市内舗装工事梅ヶ丘地区)の2社を優良表彰とし、市役所にて表彰式を執り行いました。市の小尾建設部長は、「市のインフラ施設の整備や維持に尽力いただいている建設業の皆さんに感謝するとともに、市としても建設業の魅力発信に努めたい」と話していました。

3/31 第10回ものづくり日本大賞
経済産業大臣賞に津島栄樹さん



第10回ものづくり日本大賞の受賞者が発表され、株式会社「F」コンポジット代表取締役の津島 栄樹さんが経済産業大臣賞を受賞しました。世界的に電気自動車が普及し、高温による電子部品の不具合の抑制やコスト競争力などが課題となる中、同社は「S-DBC法」という接合技術を独自開発。チタンをスパッタリング(薄膜製造技術)で蒸着させる独自の製法とホットプレス機での拡散接合により、高強度、高放熱性、低コストなどを同時に実現しています。この快挙を報告するため市役所を訪れた津島さんは、「(同技術を用いた部品の)量産はまだ始まったばかり。これを世界標準の技術にするのが夢」と語りました。同技術を用いた部品は、米国の大手自動車メーカーが製造する電気自動車に正式採用されるなど、高い市場シェアの獲得が見込まれ、津島さんは「技術は、人に使われてこそ価値があると思います。我々の技術も、なるべく多くの人に使っていただきたいと強く願っています」と話しています。

4/1 令和8年度新規採用職員入庁
51人がスタートラインへ



4月から新年度が幕を開け、市の新規採用職員が入庁しました。令和8年度の新規採用職員は、消防職、医療職を合わせて51人。4月1日に開かれた辞令交付式を経て、それぞれの配属先で市職員としての一歩を踏み出しました。「初めての経験が多いのですが、一日でも早く仕事を覚え、市民の皆さんのためになれるようがんばります!」と語るのは水道局総務課に配属された藤間 航哉さん(写真左)。高齢者支援課に配属された大林 葉菜さん(写真右)は、「笑顔を絶やさず、日々皆さんに着実な成長をお見せできるよう全力で頑張ります!」と決意を話しました。

人のうごき

《総人口》
97,145人(+553)
男性 49,542人(+400)
女性 47,603人(+153)
《世帯》53,383世帯(+554)

()内は、前月との比較です。

5-1 現在

手づくりの着陸場から新千歳空港へ 開港100年の歴史を振り返る

ちとせ空港 百年物語

Vol. 国内初の
37 24時間運用空港

国際エアカーゴ基地構想
昭和60年代、北海道は、新千歳空港を国際航空貨物の拠点空港として位置づける「国際エアカーゴ基地構想」を打ち出しました。

この構想では新千歳空港の24時間運用が必須とされ、運用にあたり地域との合意形成を図るべく、平成2年2月に北海道、千歳市、地域住民との協議の場として千歳市地域協議会を設立。対策案の検討やテストフライトを経て合意が成立し、平成6年4月に合意書の調印式を行いました。合意の内容は、22時7時の深夜・早朝時間帯の新千歳〜アムステルダム線が就航しました。平成10年6月の地域協議会では国際・国内の旅客便も6枠に含めることで合意し、翌月には全日空が深夜定期旅客便の運航を開始しました。

6枠の弾力運用
平成6年4月の合意では、6枠に離着陸できる航空機は貨物便のみとされましたが、平成9年5月、KLMオランダ航空便も加えることで住民と合意。10月には名古屋〜新千歳〜アムステルダム線が就航しました。平成10年6月の地域協議会では国際・国内の旅客便も6枠に含めることで合意し、翌月には全日空が深夜定期旅客便の運航を開始しました。

調印式の様子
左端：横路道知事 中央：東川市長

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしつていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851